

川崎医療福祉学会機関誌（和文誌、英文誌）査読者の方へ

1. はじめに

このたびは川崎医療福祉学会機関誌（和文誌、英文誌）の査読をお引受けくださり、誠にありがとうございます。本文書は、査読にあたってのガイドラインを記したものであり、また、投稿者を含む会員の皆さまに、査読の方針について見通しを持っていただくことを目的としています。

2. 迅速な査読をお願いします。

査読は、第1稿については2週間以内、修正稿（第2稿、第3稿）については原則1週間以内で完了してください。本誌は原稿の受付時期が設定され、刊行時期が固定されている関係上、査読期間（約2か月）と査読回数（3回）に制限を設けています。査読が長引きますと採用に至らず、著者の不利益になります。ご多忙の折に恐縮ですが、くれぐれも迅速な査読をお願いいたします。

3. 執筆規程をあらかじめご確認ください。

原稿が執筆規程に沿っていない場合、著者に修正を求めることとなります。極端な分量の超過や必要な情報の欠落など大きな齟齬がある場合はあらかじめ著者に修正を求めています。査読時に修正可能なズレは、その都度ご指摘いただければ幸いです。

4. 採否の判断は、慎重かつ明確をお願いいたします。

論文の採否は、投稿者のキャリアを左右する場合があります。本誌の投稿者には大学院生などキャリア形成初期の方も少なくない現状に鑑み、不備があっても修正によって改善され採用に至る可能性がある場合は、その可能性を汲んでご判断をいただければ幸いです。ただし、とくに第2稿以降は、いたずらに査読を長引かせることのないよう、採否を明確にする方向で判定をおこなってください。

5. 要修正事項は、できるだけ具体的にご指摘ください。

修正を要する事項があると判断される場合は、著者が原稿のどの部分をどのような方針で修正すればよいのか、できるだけ具体的にご指摘くださるようお願いいたします。また、著者は指摘された事項を修正すれば採用に至ると期待して改稿することになります。原則として、第1稿の時点であるべくすべての指摘をおこなうようにご留意ください。

6. 対等な立場でのコメントをお願いいたします。

アカデミックボランティア、かつピアレビューの観点からの査読にご協力ください。研究者として対等な立場にある方が、今回は査読する側とされる側に回っている、という点にご留意いただければ幸いです。コメントはできるだけ丁寧な表現を使い、結果として著者を傷つけることにならないよう、ご配慮をお願いいたします。

7. 著者の専門分野の多様性にご配慮ください。

投稿者はそれぞれ個別の学問分野において研究者としてのトレーニングを受けており、それが査読者の専門性と異なる場合があります。学問分野によって論文執筆時の慣例に違いがありますので、執筆規程を逸脱しない範囲で、その多様性を尊重していただければと思います。もちろん、学術論文として明らかに不自然、不適切である等のことがあれば、ご遠慮なくご指摘ください。